

円ぐらいを払ってもらい、時間のある高齢者に1時間1000円など有償で見てもらおう。

- ・介護をしている人達の集い-悩む人が交流、専門家と相談もできる。(高齢者支援センターと連携)
- ・子育て中の親の集い-親同士の悩みを打ち明ける場。専門のケースワーカーに同席してもらおう。

2週間に1回など定期的に開催。

- ・介護度が低いか元気な高齢者の集い-麻雀、囲碁、将棋などの定期利用。町トレや介護予防教室。
- ・そろばん、数学、公文など定期的利用-収益を目的でも、地域のためであればいいのではないか。
- ・オープンスペースは常駐管理が必要であり、需要が見込めないし、無料であるので広いスペースを確保するのは難しいが、入口付近に他の部屋とは区切る形で設置するなど、管理が可能であれば設置できる可能性はある。
- ・気軽に誰でも立ち寄れる会館という考え方は、夢のあることであるが、利用する人が会館の周辺に住んでいる人に限られそうなので需要が少ないのではないか。
- ・現在の建設委員会が使っている会館の名称「(仮称)自治会館」は、自治会のための会館と受け取られそうなので、地域のための会館という意味から設計チームで提起された「(仮称)ふれあい会館」などへの名称の変更は4月の総会で提起したほうがいい。

1 委員会としての議論と本日の到達点

- (1) 建設構想は平屋、工事費総額5,500万円をたたき台として、検討をさらに進める方向を確認。
- (2) 建設委員会の委員をふれあい基金運営委員会から派遣するよう要請することを確認。
- (3) 仮称・自治会館との名称を「仮称・ふれあい会館」に改める方向を確認。各自治会総会では、口頭で説明する。
- (4) オープンスペースの確保、会館の具体的な使用方法、管理方法などについては引き続き議論をする。
- (5) 1・2丁目自治会アンケート延期理由説明と意見-これらについては今後検討して、丁寧に説明していく。
 - ① これまでの質問や不安に対する建設委員会からの明確な回答がなされない状況で計画通りアンケートが実施されてしまう運営手法に問題があると考えていること。
 - ② これまでの時間的制約に関する(そして建設委員会にとって都合の良い)誤った情報提供に対する誠意ある対応がないこと。
 - ③ これらは1・2丁目自治会役員の意向ではなく大多数住民の意向であること。
- (6) 会館建設後の経済的・人的負担について、ただ「自治会に負担はかけないあるいは極力なくす」というのではなく、最大でこれだけの負担に抑えるというデッドラインを示して議論する必要があるのではないかと。
- (7) 損益分岐点については検討し、精度を上げる必要がある。とはいえ、利用需要の開発と見通し、使用料の設定、管理運営方法などの様々な要素が相互に影響しあうため、現状で確たるものを示せるわけではない。引き続き検討する。
- (8) つくし野の条件と類似する先例を調査・分析するのが有効ではないか。町の成り立ち経緯、歴史・人口規模・高齢化率でつくし野に似通った成瀬台には割と新しい「ゆりのき会館」があり、なかなか利用率も高くうまく運営されているようだ。自治会の人的負担や金銭負担はどの程度なのか?見学・調査したらどうか。
 - 成瀬台「ゆりの木」会館見学を設定する。2月19日午後~21日午後の日程で、相手方の都合と調整の上、日程を決定。(後日、2月19日午後1時からと決定。)参加者を募る。
- (9) つくし野コミュニティーセンターの有効利用運営方法や町田市の負担する維持経費はどのようになっているのか。
 - 町田市市民協働推進課に問い合わせ・調査検討する。

2 次回日程 - 今回は、開始時間を19時40分に遅らせたが、次回は奇数月でつくし野自治会連合の定例会が19時半から予定されており、年度末の最後の会議でもあり、建設委員会の開始時間を遅らせるわけにはいかない。開始時間にご注意を!

次回日程 : 3月8日(金) 17時半 ~ 会場:つくし野センター